

第29回 さんぽを楽しむ会 実施報告

大河ドラマ「べらぼう」ゆかりの街を歩く

令和7年11月18日（火）、旭川東高等学校東京同窓会第29回「さんぽを楽しむ会」は、NHK大河ドラマ「べらぼう～薦重栄華乃夢嘶～」ゆかりの吉原界隈のさんぽにでかけました。参加者は東高7期から39期までの総勢24名でした。ガイドは24回からお願いした東京シティガイドクラブの伊藤真澄さんと、野々委佐男さん、細谷彰男さんの三人です。



東京メトロ三ノ輪駅前歩道に集合 ⇒駅北隣ゲーム店駐車場で出発式
ガイドさんによって若干異なるというものでした。

私たち「東」班は、下町がお得意の野々さんのご案内です。江戸の五色不動の一つ目黄不動の永久寺のイチョウを見ながら樋口一葉旧居に向います。目黄不動のお寺、永久寺は、寛文年間に首切り役として知られる山野嘉右衛門（号は藤原の永久）が、供養のため諸堂を再建し、寺院名も永久寺とされたといいます。ひとしきり首切り役の話をしながら歩くこと数分で、台東区立一葉記念館前の公園に到着。ここ下谷龍泉寺町（現台東区龍泉）は樋口一葉の旧居で、吉原へはほんの200mぐらいです。明治26年（1893）に本郷菊坂（文京区）から転居した一葉は、ここで駄菓子荒物の店を営んでいました。代表作の「たけくらべ」はわずか9ヶ月ではあります、ここで経験を生かしたものです。

一葉旧宅（現在は個人の住宅）の向いに「おし田」というお菓子屋さんがあります。野々さんのご推薦で、田舎まんじゅうを買ってみました。140円は安い。ほんのり暖かくておいしかった！

さて田舎まんじゅうをいただき、次は、飛不動として知られる龍光山正宝院へ立ち寄りました。ここ「飛不動尊」は、住職が奈良までご本尊を担いで修行を行った際、江戸の信者の願いを聞いて奈良から空を飛んで帰ってきたという伝説があります。旅の無事を祈るばかりか、ゴルフや航空関係、さらにはJAXAの小惑星探査機「はやぶさ」の無事帰還というご利益でも有名です。

そこから、鷺神社へと向かいます。境内はすっかり酉の市の設えです。今年は二の酉（11月24日）までですが、一の酉は、11月12日すでに終わっていたことを後になって気が付きました。“なでおかめ”という撫でる場所によってさまざまな御利益があるという大きなおかめがあります。野々さんいわく、全部撫でちゃうとのこと。



吉原神社（九郎助稻荷） 吉原の要社

午前9時45分、東京メトロ三ノ輪駅2番出口を地上に出たところに集合。24回の際にガイドをつとめ、また、今回のコース案を考えてくださった浅草エリア統括責任者の七尾けい子さんがご挨拶に来てくださいました。七尾さん曰く「昔のイケメン」ガイドと一緒に「旭」「川」「東」3班に分かれて、いよいよ散歩を開始します。今回は、見学先までのルートは



一葉記念館 一葉は此處で9ヶ月過す



酉の市で知られる鷺神社 段取りも高度

それぞれ願い事をし、酉の市の賑わいを想像しながら、いよいよ吉原弁才天へ向かいます。まず、末社の吉原弁才天本宮へ。ここには大きな池（花園池）があったそうですが、今は関東大震災の受難者を慰靈する吉原観音像のほか、小さな池に高そうな錦鯉が泳いでいます。そこから徒歩1分で吉原神社（九郎助稻荷）へと歩きます。ここには九郎助稻荷、吉徳稻荷、榎本稻荷、明石稻荷、開運稻荷、吉原弁才天が祀られています。これらの御祭神はもともと吉原の入口（吉徳稻荷）と四隅（榎本稻荷、明石稻荷、開運稻荷、九郎助稻荷）に祀られていたそうです。



江戸新吉原耕書堂 耕書堂を模した観光拠点施設

吉原は新吉原ともいわれ、日本橋人形町にあったものを明暦 3 年（1667）に現在の地に移転したものです。お歯黒ドブあとや仲之町（引手茶屋）、江戸町（遊女屋）などの吉原の街を歩きました。ここで、「薦重」の登場人物である大文字屋の跡地や明治三大妓楼（大文字屋（江戸期のとは違う）、稻本楼、角海老楼）の一つ稻本楼の後身のホテルレインアモトなど、街並みを見学。妓楼の格を表すのは籬（まがき）の大きさのこと。大見世は大籬、中見世は判籬、小見世は惣半籬。格 = お値段ということで、江戸時代の人は懐具合に合わせて、店を選んでいたよう

です。今回は奥から大門へというコースで歩きました。引手茶屋の面影を残す料亭金村、江戸新吉原耕書堂、そして今も吉原交番！が大門の脇にあります。吉原の地名はなくこのあたりは台東区千束ですが、交番だけは吉原です。薦重の耕書堂は大門を出たところあたりにあったそうです。ゆるくカーブした五十間道の先には見返り柳。



見返り柳 惜別の一瞥を…



薦重三郎顕彰碑（正法寺）

そこからしばらく歩くと薦重の菩提寺正法寺。ビルになったお寺の境内に太田南畠が記したという顕彰碑があります。ここでも、関東大震災や第 2 次世界大戦の空襲の被害などで、江戸の記憶が失われた様子がうかがえます。

そこから山谷堀を埋め立てた山谷堀公園を歩きます。昔は隅田川から猪牙舟（ちょきふね）に乗り換えて吉原へ出かけるのが贅沢な遊び方として知られています。また、このあたりは江戸三座の猿若町（現在の浅草 6 丁目辺り）も近く、往時は華やかな場所であったようです。山谷堀にはいくつか橋があり、そのなかに紙洗橋という橋がありました。このあたりは漉返紙（すきかえしがみ・浅草紙・ちり紙）の作業所があり、そこの職人が紙を「冷やかす」（紙を水に晒す）2 時間あまりの間に、遊郭へ出かけるも時間がなくて登楼せずに帰ってしまうことから、買う気のない客を表す隠語として「冷やかし」が生まれたとか。



待乳山聖天 小高い丘上に立派な伽藍が鎮座

そして待乳山聖天へ。小高くなった待乳山聖天は、吉原唯一の山です。階段を上ると大根が、しかも本場の三浦大根です。聖天に対するお供え物として知られる大根は、お下がりもあり、ありがとうございます。

あともう少しで終点のべらぼう江戸たいとう大河ドラマ館です。その手前に花川戸公園があります。浅草小学校に隣接しており、都指定旧跡の姥ヶ池があります。姥ヶ池は、隅田川に通じる大池で明治 24 年（1891）に埋め立てられました。「昔、娘が連れ込む旅人の頭を石枕で叩き殺す老婆があり、ある夜、娘が旅人の身代わりになって石の下敷きになって死に、それを悲しみ悪行を悔やみ、老婆は池に身を投げた」という言い伝えがあるそうです。最後はちょっとホラーな伝説のある下町浅草・吉原界隈のさんぽでした。



べらぼう江戸たいとう大河ドラマ館 1 階ホールで全員集合

公園の隣はゴールです。べらぼう江戸たいとう大河ドラマ館の 1 階で集合写真を撮りました。ここで東京シティガイドクラブの案内は終了。「東」班は、タブレットという新兵器を駆使して、軽妙な案内をしてくださった野々委佐男さんのガイドを堪能いたしました。約 9,000 から 10,000 歩のさんぽとなりました。

見学を終えて昼食会場の「やきとり道場 東武浅草駅前店」へ向かいます。さんぽを終えたあとは冷えたビールでの乾杯。リーズナブルな居酒屋メニューでおなかもいっぱいになり、15期朝比奈さんも合流してにぎやかで楽しい昼食会となりました。



昼食後、有志でべらぼう江戸たいとう大河ドラマ館の見学に出かけました。19名、あと一人いれば団体割引となりちょっと悔しいかも。ここでドラマを見ていない参加者も内容がわかり、ガイドさんのお話を思い出して、「そういうことだったんだ！」とあらためて感心していました（笑）

次回は、2026年5月中旬、都内の見学を予定しています。多くの旭東OB、OGの皆様の参加をお待ちしております。

（執筆：27期 砂澤祐子、制作：18期 徳田光雄） 2025.11.18



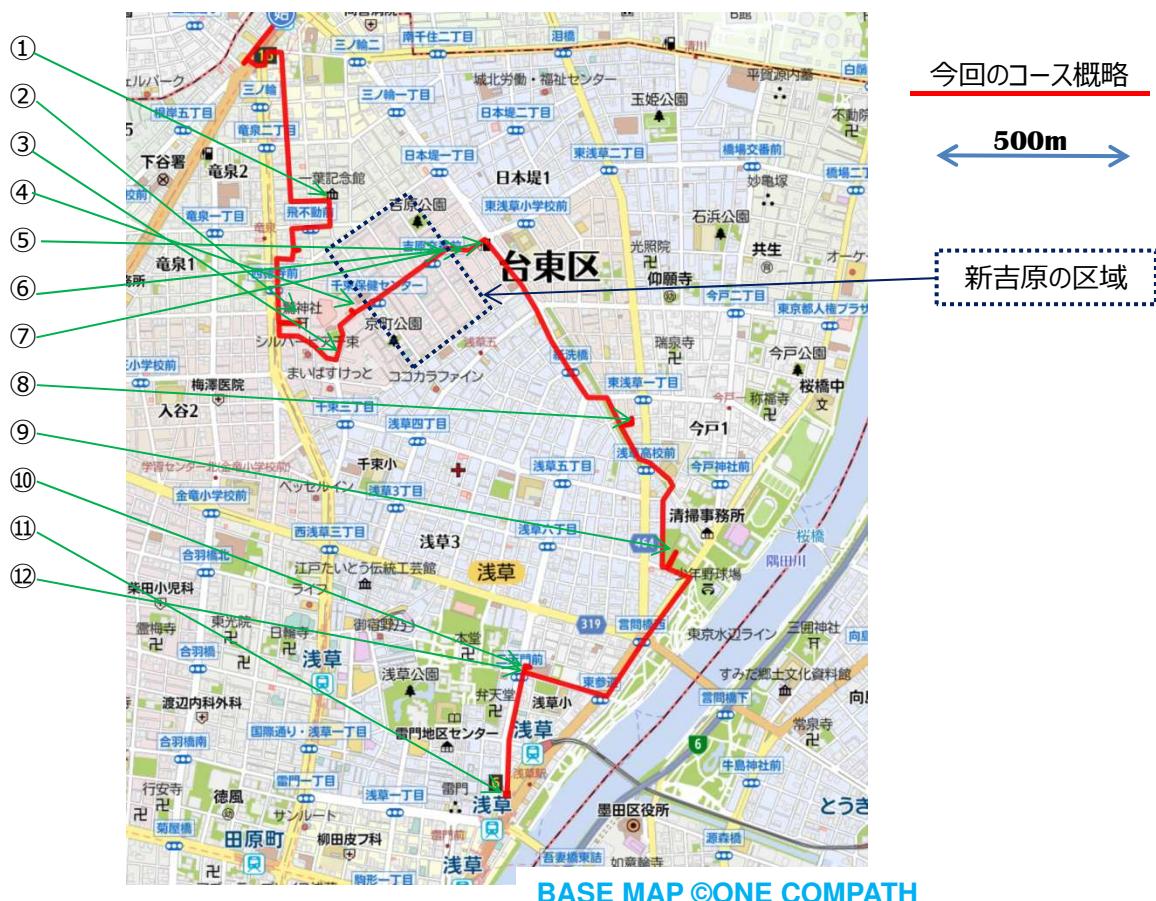
【補足資料1】 コースガイド MAP ……当日実施コース。当初計画コースが一部変更されている。

第29回「さんぽを楽しむ会」『NHK 大河ドラマ「べらぼう～薦重栄華乃夢嘶～」ゆかりの吉原界隈のさんぽ』

■日時：11月18日（火）午前9時45分集合 東京メトロ日比谷線三ノ輪駅2番出口地上集合

■コース：『大河ドラマ「べらぼう」ゆかりの街を歩く』コース 三ノ輪駅 10:00 出発

- ①一葉記念館・一葉旧居→②鷺神社経由→③吉原弁才天→④吉原神社→⑤新吉原耕書堂
- ⑥吉原大門→⑦見返り柳→⑧正法寺→⑨待乳山聖天→⑩台東区民会館1階
- ⑪昼食会場「やきとり道場 東武浅草駅前店」にてビール付き昼食会 掘り炬燵席（場内禁煙）
- ⑫べらぼう 江戸たいとう大河ドラマ館（台東区民会館9階）【自由見学】



【補足資料2】 各班の集合写真



「旭」班集合@九郎助稻荷（吉原神社）

参加者は「旭」、「川」、「東」の3班に分かれ
各班1名のガイドさんに先導・撮影いただいた



「川」班集合@山谷堀公園



「東」班集合@姥が池跡



「自由見学」班集合@べらぼう江戸たいとう大河ドラマ館(台東区民会館9階)